

平成19年度海外出張に関して、次のとおり報告します。



サント・ペテルブルグ市議会議長（中央）を親善訪問

（出張者）大阪市会議長 足 高 將 司

海外出張概要

- 出張期間 平成 20 年 2 月 6 日（水）～2 月 16 日（土） 11 日間
- 出張目的 姉妹都市サンクト・ペテルブルグ市及び同市議会親善訪問、フロン市表敬訪問、ロンドン市議会表敬訪問、並びに各都市における議員活動の調査及び総合計画、集客施策、福祉施策、教育施策等の都市行政調査
- 訪問都市 サンクト・ペテルブルグ市、フロン市、ロンドン市
- 訪問・視察先
- サンクト・ペテルブルグ市
- ・サンクト・ペテルブルグ市長親善訪問
 - ・サンクト・ペテルブルグ市議会親善訪問
 - ・在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館
 - ・エルミタージュ美術館
 - ・ミハイロフスキー城（財務大臣会合開催場所）
 - ・露日友好協会
 - ・サンクト・ペテルブルグ植物園（ロシア科学アカデミー・カマロフ学会植物園）
 - ・コンスタンチン宮殿（G 8 首脳会合開催場所）
- フロン市
- ・フロン市長表敬訪問
 - ・ドローバック
 - ・オスロ市庁舎（オスロ市）
- ロンドン市
- ・カードウェル小学校（グリニッチ区）
 - ・ロンドン市議会表敬訪問
 - ・大英博物館
 - ・キングスクロス駅周辺再開発
 - ・J E T R O（日本貿易振興機構）ロンドンセンター
 - ・ニューハム区

はじめに

私は、平成 20 年 2 月 6 日（水）から 2 月 16 日（土）までサンクト・ペテルブルグ市、フロン市（ノルウェー）及びロンドン市に出張し、サンクト・ペテルブルグ市及び同市議会親善訪問、フロン市表敬訪問、ロンドン市議会表敬訪問、並びに各都市における議員活動の調査及び総合計画、集客施策、福祉施策、教育施策等の都市行政調査を行ってまいりました。

2009 年に姉妹都市提携 30 周年を迎えるサンクト・ペテルブルグ市では、副市長（副知事）及び市議会議長を親善訪問したほか、2006 年に同市において開催された G 8 サミット（首脳会合及び財務大臣会合）関連施設、集客施設などについて調査・視察しました。また、フロン市では、ワールド・リンキング・ツリー（12 月に大阪市庁舎前に設置されるツリー）を通じた本市との交流に関して謝意を伝えるため市長を表敬訪問しました。さらに、ロンドン市では、市議会議長を表敬訪問したほか、小学校における教育事情、駅前再開発、区におけるスポーツを通じた自立支援の取り組みなどを調査・視察しました。

サンクト・ペテルブルグ市

◆サンクト・ペテルブルグ市の概要

サンクト・ペテルブルグは、ロシア北西部の北緯 60 度に位置する世界最北の大都市（ヨーロッパで 4 番目）で、人口は約 480 万人。42 の島、ネバ川から分かれた大小 40 の川、延べ 160 キロに及ぶ 20 の運河、合計 342 の橋があり、「北のヴェネチア」とも呼ばれています。

1703 年、ネバ川河口の荒涼とした湿地帯にピョートル大帝が新都建設に着手し、1712 年にサンクト・ペテルブルグは完成し、首都はモスクワから移されました。1914 年にペトログラードと改称され、ロシア革命の翌年 1918 年に首都は再びモスクワへと移されました。1924 年レーニンの死去に伴いレニングラードと改称され、ソビエト連邦崩壊後の 1991 年住民投票によりサンクト・ペテルブルグの名称が復活しました。

サンクト・ペテルブルグ市は、ネバ川をはさんで南北に二分されていますが、賑やかなのは川の南側で、エルミタージュ美術館、旧海軍省の建物を中心にネフスキー通りなど 7 つの通りが放射線状に伸びています。ホテル、寺院、劇場などがあるのはこちら側で、川の北側には、1703 年にピョートル大帝が築いたペトロハヴァロフスク要塞があります。

大阪市とサンクト・ペテルブルグ市とは 1979（昭和 54）年 8 月 16 日に姉妹都市提携を行いました。

◆提携の経緯

1961（昭和 36）年、当時のソビエト連邦副首相来阪時に姉妹都市提携の申入れがあり、

その後、文化・芸術分野の交流を積み重ね、1979 年レニングラード親善訪問団の訪ソの際に姉妹都市提携が行われました。

(主な交流状況)

- 1984 年 大阪市代表团及び大阪市経済交流使節団が 5 周年を記念して親善訪問
- 1989 年 10 周年記念使節団の派遣、サンクト・ペテルブルグ市での記念行事の実施
- 1994 年 15 周年を記念してサブチャク市長一行が来阪、写真展の開催。エルミタージュ美術館のピオトロフスキー館長夫妻の来阪
- 1995 年 プーチン副市長来阪、サンクト・ペテルブルグ市から阪神・淡路大震災による大阪の被災児童への応援絵画・手紙を持参
- 1999 年 20 周年記念代表団の派遣。大阪のバレエ交流団の訪ロ
- 2003 年 サンクト・ペテルブルグ市建都 300 周年記念式典に大阪市長・議長参加
- 2004 年 25 周年記念のためマトビエンコ知事一行が来阪、民族舞踊団の御堂筋パレードへの参加、記念事業の開催（着物ショー、セミナー、絵画・写真展など）
- 来年 2009 年に姉妹都市提携 30 周年を迎えることになります。

2 月 7 日 (木)

サンクト・ペテルブルグ市行政庁

午前 10 時、サンクト・ペテルブルグ市役所に到着しました。サンクト・ペテルブルグ市行政庁というのが正確な表現のようであるので、以下「市行政庁」ということにします。正面玄関で在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館の内田首席領事の出迎えを受け、市行政庁内に入りました。そこから市行政庁の国際交流担当課職員であるオルガ・コロレバ女史の案内で、知事（1996 年までは市長と呼ばれていた）応接室に入室しました。

市行政庁の庁舎は、スモーリヌイ修道院に隣接する元貴族女学院寄宿舍です。1809 年に建てられました。1917 年のロシア革命により女学院は閉鎖され、1991 年までソビエト中央執行委員会の事務所が置かれていました。10 月革命の本部となった場所でもあります。モスクワに首都が移るまでレーニンが一室に住み執務していたということです。

タラソフ副知事表敬訪問

知事応接室でセルゲイ・ポリソビッチ・タラソフ副知事と対面しました。当初はマトビエンコ知事を訪問する予定でしたが、急遽の公務のため、副知事が対応することとなりました。

(対応者)

セルゲイ・ポリソビッチ・タラソフ 副知事
オルギョニキジェ 観光課長同席

平松大阪市長からマトビエンコ知事にあてた市長親書を手渡した後、副知事らと意見交換を行いました。

冒頭、私から「大阪市とサンクト・ペテルブルグ市が 1979 年に姉妹都市提携を行って以降、これまで様々な分野で交流を深めることができたのも、知事、副知事をはじめサンクト・ペテルブルグ市民、関係者の皆様方のご尽力の賜物である。来年は姉妹都市提携 30 周年を迎える大変喜ばしい節目の年でもあり、両市の国際友好交流がますます発展することを祈念する。」旨あいさつしました。また、「大阪市においては、観光施策は市政の重要な課題となっており、世界に大阪を広く知っていただくため、また、大阪経済の活性化を図るため、鋭意諸施策を推進している。そのような中、ロシア最大の文化都市として発展し、世界遺産であるエルミタージュ美術館を有するサンクト・ペテルブルグ市の観光施策について、意見交換をさせていただくことは誠に意義深い。」旨発言しました。



タラソフ副知事に大阪市長の親書を手渡す

これを受けてタラソフ副知事からは、30 周年記念事業等について次のような内容の説明がありました。

◆30 周年記念事業について

2004 年のトヨタ自動車の進出以来、日産、スズキなど自動車産業を中心に日本企業の進出が相次いでおり、日露経済関係も進展しているが、今回の訪問で、両市の関係も様々な分野で深まることになると思う。サンクト・ペテルブルグは、経済だけでなく、文化、芸術、スポーツなどあらゆる分野において国際レベルのポテンシャルを有しており、特に文化やスポーツに関していうと、市民レベルでの取り組みも盛んでグローバルなネットワークが築かれつつある。来年は姉妹都市提携 30 周年を迎えることでもあり、特に文化、ビジネス、教育、観光、スポーツなどの分野において、都市交流事業、都市交流プランが企画されることを期待している。サンクト・ペテルブルグ市民は、総じて日本文化が好きであり関心も高い。サンクト・ペテルブルグでは、日本との関係で多くの文化行事が行われており、特にサンクト・ペテルブルグ露日友好協会の主催により、2001 年から日本の文化を紹介する「日本の春」フェスティバルが連続して開催され、市民の人気を博している。30 周年記念に向けていろいろな事業が考えられるが、これからお互いにアイデアを出し合っ

て、検討を進めていければよいと考えている。

(帰国後、オルガ・コロレバ女史から大阪市の国際交流担当に連絡が入り、「サンクト・ペテルブルグから大阪ハーフマラソンに参加することも考えられる。周年事業としては、春のサンクト・ペテルブルグ「日本の春」フェスティバルの一環として「大阪の日」、秋に大阪で「サンクト・ペテルブルグの日」を設けることも一案である。「大阪の日」では、科学者、ビジネス界、サンクト・ペテルブルグ市、大阪市、NGOなどを交えたセミナーとか円卓会議も面白いと思う。」という提案があったとのこと。)

◆サンクト・ペテルブルグの集客施策について

観光客を誘い込む「誘客施策」がサンクト・ペテルブルグにとっても重要であると考えている。一般的なイメージとしては、エルミタージュ美術館ということになるが、そのほかにもマリインスキー劇場、夏の宮殿など見所がいっぱいある。特に冬季に観光客をどのように呼び込むかが課題であり、旅行社ともタイアップしてPRに努める必要がある。サンクト・ペテルブルグは、その建造物群が世界文化遺産にも登録されており、海外への働きかけが重要である。最低でも2泊3日の滞在でないと、サンクト・ペテルブルグを知ることにはできない。本年4月には、成田ーサンクト・ペテルブルグ間に直行便が就航する予定であり、日本からの観光客が増加することを期待している。

◆文化振興について

サンクト・ペテルブルグ市はロシア帝国時代の首都として繁栄したため、バレエ、オペラ、演劇、クラシック音楽等の芸術活動が非常に盛んで、そのレベルも高い。ロシアにおける「文化の都」とも呼ばれる。市民生活の中にも観劇等は深く浸透している。マリインスキー劇場は、サンクト・ペテルブルグ市を代表する劇場で、日本を含め海外公演でも高い評価を得ている。マリインスキー劇場では、毎晩、オペラかバレエが上演されている。サンクト・ペテルブルグ・ハーモニー交響楽団は、クラシック音楽団として世界的に有名で、国内はもとより世界各国で演奏活動を続けている。



タラソフ副知事との意見交換

その後、タラソフ副知事から、大阪市の集客観光施策についての質問があったので、私

からは概略次のような説明を行いました。

「2002 年に訪日した外国人旅行者が 614 万人だったのに対し、日本からの海外への観光客は 1683 万人。政府は交流人口拡大が日本の将来にとって大切と判断。2010 年までに訪日外国人観光客を 1000 万人に増加させることを目標とするビジットジャパンキャンペーン(VJC)を開始。大阪市も VJC に賛同している。本市の目標は、2008 年までに宿泊観光ビジターを 1200 万人、海外観光ビジターを 200 万人に増やすこと。東アジア地域へ集中的にプロモーションを行っている。

大阪は水の都として栄え、市役所のある中之島は長い間日本経済の中心地であった。大阪城には年間 100 万人以上の観光客が訪れる。海遊館は世界最大級の水族館。USJ は 2001 年にオープンし、年間 800 万人以上もの集客がある。文楽は大阪の文化を代表するものであり、2003 年に世界無形文化遺産に登録された。大阪は食の都でもある。地理的に、大阪は、京都・神戸・奈良など他都市への窓口となっており、また都市間交通も発達している。世界遺産が集中している京都・奈良・和歌山・姫路といったエリアにも近く、大阪に宿泊してもらって観光にでかけてもらうことができる。次なるステップとして、①大阪市のブランドを確立させること、②そのブランドをもとに他都市と連携しながら集客プロモーションを実施すること、が課題であると考えている。」

次に私から、2006 年サミットに際してのサンクト・ペテルブルグ市の対応について質問したところ、「市内部での準備体制としては、本番前年の 2005 年 9 月には、サミット準備室が発足。マトビエンコ知事が委員長となり、副知事及び市行政庁の各部局代表者で構成する 63 名の委員が 8 つのワーキンググループを組織し、準備を進めた。首脳はサミット会場のエリア内にとどまったが、夫人はサンクト・ペテルブルグ市内を訪問することとなっていたので、まちの美しさをアピールするべく、市の交通局と建設担当局が道路の整備やまちの景観美化に努めた。道路を花で飾ったり、道路上の売店を撤去したりした。サンクト・ペテルブルグ市内の警備や道路整備、景観向上等に要する費用は市が負担した。」との説明がありました。

最後にタラソフ副知事とは 2009 年の 30 周年記念事業の成功を約束し、お別れしました。意見交換終了後、サンクト・ペテルブルグ市職員の案内で、1 階にある大ホール、2 階にあるレーニンの執務室（前の廊下の壁には大理石に彫り込んだ革命憲法が掲げられていた）及び寝室、女学院の寄宿舍を再現した部屋などを見学しました。庁舎 1 階の長い廊下の両側には、歴代市長の肖像画が飾られていました。

サンクト・ペテルブルグ市議会

午後 1 時、サンクト・ペテルブルグ市議会に到着しました。正面玄関で在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事・城所氏の出迎えを受け、市議会に入りました。ここは、旧マリインスキー宮殿の建物で、皇帝ニコライ 1 世が娘マリアの結婚に際しての贈り物として 1844 年に建造されました。1991 年から市議会が置かれています。宮廷建築家シュタッケン・

シュナイダーの設計によるもので、1917 年ロシア革命が勃発した際には国会議事堂にもなったことがあります。建物内部は、まさに「宮殿」と呼ぶにふさわしい絢爛豪華な造りでした。

◆市議会議長親善訪問

(対応者)

ワディム・チュルパノフ 市議会議長

ワタニアル・ヤグジャ 市議会副議長（海外関係担当）

テレホフスキー 市議会国際関係課長

(議長応接室にて)

平松大阪市長からチュルパノフ市議会議長にあてた市長親書を手渡した後、市議会議長らと意見交換を行いました。

私からは「大阪市とサンクト・ペテルブルグ市は、1979 年に姉妹都市提携を行い、これまで様々な分野で交流を深めることができたのも、議長をはじめサンクト・ペテルブルグ市議会の皆様方のご尽力の賜物である。来年は姉妹都市提携 30 周年を迎える大変喜ばしい節目の年でもあり、両市の国際友好交流、議会間の交流がますます発展することを祈念する。」旨申し添えました。



チュルパノフ議長に大阪市長の親書を手渡す

これを受けてチュルパノフ議長からは、日本との交流事業等に関して、「サンクト・ペテルブルグ市議会としては、2004 年にマトビエンコ知事を団長とする代表団が大阪を訪問している。サンクト・ペテルブルグ市の外側一帯を管轄しているレニングラード州も、1994 年から京都府と姉妹都市提携しており、自治体間、あるいは市民相互間の交流が促進されている。トヨタ自動車の工場が建設されるなど日本企業の進出も著しい。トヨタの工場にはプーチン大統領、森元首相も昨年訪れた。新しい工場が建設されることにより、技術革新はもとより、現場の従業員にも好影響が出ている。従業員は皆仕事に誇りを持っており、従業員はひとつの家族になっている。日本語を勉強する従業員もいる。本年 4 月には、成田ーサンクト・ペテルブルグ間に直行便が就航し、知事、市議会議長も来日する予定であ

る。東京でプレゼンテーション・PRも予定されている。」との説明がありました。

さらに、チュルパノフ議長から、「サンクト・ペテルブルグはモスクワと同様に州からは独立した連邦直属の市であり、他の共和国、地方、州、自治州、自治管区とともに、ロシア連邦構成体のひとつである。サンクト・ペテルブルグの外側の地域をレニングラード州が管轄している。」との説明がありました。

これはまさに日本で議論されている道州制とスーパー指定都市に近い形態であると考えられたので、私からは、「日本では、政令指定都市と府県による二重行政といった問題が議論されている。大阪市では将来の自治システムとして、道州制の創設を前提に大都市の行政権限を大幅に強化する「スーパー指定都市」の実現を目指している。サンクト・ペテルブルグ市とレニングラード州との間で何らかの弊害は生じていないのか。」と質問したところ、チュルパノフ議長からは、「今はそのような問題は生じていない。しかしながら、将来的には州と市が併合されるということも想定されるので、日本の事例なども勉強しておきたい。」旨の発言がありました。

次に私からサンクト・ペテルブルグの行政課題についてお伺いしたところ、チュルパノフ議長からは、「サンクト・ペテルブルグの発展のためには、内外からの投資を誘導することが必要であり、日本がロシア経済に関心を示しだしていることは、大変喜ばしいことである。サンクト・ペテルブルグでは社会政策プログラムにも力を入れており、特に年金生活者支援のプログラムを策定している。観光シーズンは、やはり白夜のある夏であるが、年間 300 万人という海外からの観光客数は、都市の規模からすると少ないといわざるをえない。三ツ星ホテルの整備はまだまだ不十分である。」との説明がありました。

さらに、現在の議会と市の関係について、「市政を円滑に運営していくためには知事と議会の理解と協力が必要であるが、今はたいへん良好な関係にある。知事の大きな仕事は大きなお金を中央政府から持ってくることであるが、市の経済も発展し、ここ 4 年間で予算も 3 倍に増加した。」との説明がありました。これは、サンクト・ペテルブルグがプーチン大統領を輩出した（副市長でもあった）ところでもあり、中央政府とのパイプも太く、優位性があるからだと推測されます。

次に、ヤグジャ市議会副議長からは、「現在、サンクト・ペテルブルグ国立大学と大阪市立大学との間で学生の交換が行われているが、もっと数を増やせないものか。議員間の交流についてもシステム化するなど、調印を行って実施することも可能ではないか。」との提案があったほか、「サンクト・ペテルブルグには大阪の海遊館と同じような水族館の構想があるようで、水族館をつくる技術など調査研究をさせていただきたい。海遊館の関係者を招待することも考えている。」との発言がありました。私からは、「その意向については海遊館を運営している大阪ウォーターフロント開発株式会社に伝える。」旨回答し、総領事館の協力も得ながら、今後具体的な話を進めていくことを確認しました。現在、具体化に向けた話が進められています。



サンクト・ペテルブルグ市とレニングラード州の位置関係

(出所) 在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館ホームページ

最後に、チュルパノフ議長から議会制度について次のような説明を受けました。

- ・市議会議員選挙は4年ごとに実施されており、従来は50ある各選挙区で1名の候補者に投票する小選挙区制でしたが、2007年3月に実施された前回選挙から政党名で投票するいわゆる比例代表制度が導入された。
- ・サンクト・ペテルブルグ市行政庁の知事は、市民からの直接選挙により選ばれることになっていたが、2004年のロシア連邦の法律改正により、ロシア連邦大統領の推薦を経て、市議会が承認することになっている。
- ・議長は選挙後最初の議会で選出されることになっており、議長は議会を代表し、議事日程を管理するとともに、条例、規則等の認証署名を行う。また、議会の透明性と議事運営の公正中立性の確保、質疑時間を管理する責任を負っている。
- ・副議長は市議会議員の中から選出され、1名は経済担当、もう1名は海外担当である。議長が市議会に出席できないときは、いずれかの副議長が議長の職務を行う。他の議員同様に質疑を行ったり、議決に加わったりすることができる。
- ・議会は週に一回水曜日に開催される。
- ・訪問時の市議会議員の定数は50人。(絶対多数を占める政党が存在しない状態)
 - 統一ロシア党：23議席
 - 公正ロシア党：13議席
 - 共産党：9議席
 - 自民党：5議席
- ・議員報酬は、年額12,000ドルであり、議会内の役職に関係なく同一の報酬を受け取ることになっている。専任として議会活動に従事し、ほかの収入を得る活動、議員活動の障害となるような副業は原則として認められていない。ただし、教師、研究・文化活動などは有給であっても認められている。
- ・市では裁判も所管しており、裁判員は市議会で任命される。
- ・サンクト・ペテルブルグ市の憲章(市の基本的事項を定めた条例)では、市議会の権限として、「市の基本方針の決定」「条例の制定、改廃」「予算の承認と予算執行」「ロシア